

初級教材の到達目標と能力重視のシラバス

村野良子

はじめに：「外国語学習のゴールは何か」という問いに対する答えは、学習者の年齢、学習環境などによって当然異なるが、今日の社会的状況を考えると、「趣味として学ぶ」人も含め、「読む・書く・話す・聞くの4技能ないしその一部の技能を使ってあることが出来るようになること」であるとするに、基本的に異論を差し挟む人は少ないだろう。無論「目的別日本語（JSP）」のように、出来なければいけない「あること」の内容が限定されている場合は事情が異なるが、初級から上級へと段階的に発達していく能力として言語運用能力を見る場合、各段階でどんなことが出来るか、出来なければならないかということ具体的に記述することが必要になるだろう。本稿は言語能力の重視という考え方の立場に立って、ICUの日本語教育の中での初級のゴールは何かを考えさらにゴールを明確に記述した初級教科書を編集するための枠組みを提案することを目的とする。

I 言語能力評価基準とICUの日本語教育

何が出来ればどの段階であるかという能力の評価基準として、ACTFLの言語能力基準がある。これは言語能力の4技能についてそれぞれ初級、中級、上級、および超級の4段階に分け、それをさらに9つに分けて、各段階での能力を記述したものである。ここでは、次に続く議論のために、ACTFLの基準を参考にし、日本の大学での日本語教育の実情に合うように作り直した物を試案（私案）として載せておく。なおこれはあくまでも試案（私案）であり、検討段階にあることをお断りしておく。 ①

次にこの能力の評価基準とICUの日本語教育の各レベルの対応を見てみよう。ICUにおける日本語教育は基本的に4年本科生を対象とする集中日本語コースと主に一年間の交換留学生を対象とする日本語コースの二つからなる。異論はあるかもしれないが集中Iと日本語1、2、3の終了時にはACTFLの基準に基づく試案の基準では中級の中～上程度、集中IIと日本語4と5の前半では上級の下、集中IIIと日本語5の後半および6では、上級の上が、さらにそれに続く上級日本語では超級がゴールとされるのではないかと考える。この関係は次のようになる。

ICUの各レベルのゴールとACTFLの能力基準の対応

日本語	1	2	3	4	5	6	上級
集中日本語	I			II	III		
能力基準	初級	中級		上級下	上級上	超級	

① 言語能力の評価基準

話す能力			聞く能力		読む能力		書く能力
初 級							
『初 級』	A	1)発音は母語の影響が強く日本人にはわかりにくい	A 僅かな単語 (10程度) と習った語句が使える (挨拶等)	1)状況が明らかな場面で既習の語句を認めることができる (ex. 挨拶表現、直接場面・対面した場面での事物の名称、決まった情報)	1)ひらがな、片仮名と頻度の高い漢字100字程度が読める 2)単語中心の短い情報がわかる	A ひらがなが少しわかる	1)ひらがなと頻度の高い片仮名、漢字(50位)が書ける 2)短い文(ex. 買物のリスト、宿題、予定のメモ)が書ける
	B	2)単語と暗記した(習った)語句を使い、最低限のコミュニケーションをすることができる	B 単語の量は増える (20~25)が、文にはならない	2)外国人のためにはっきり、わかりやすく短い文で話されたことが大体理解できる		B おおのた、よく見る駅名や町などがわかる	
	C	3)簡単な質問ができる	C 暗記した基本文が話せる。文の出現頻度は1/2以上			C 外国人のために書かれた文が読める	
中 級							
『中 級』	D	1)外国人の発音に慣れた日本人には理解できる	D 文で話すが時に単語レベルになることもある	1)日常生活のための最低限の情報を理解できる (天気予報、実話クラスの情報、クラスでの伝達事項)	1)単語レベル (ex. 切符、交通標識、看板、電話帳、番組表、文レベル (ex. 短い伝言、案内、図表、広告文)のものから情報が得られる	1)単語レベル (ex. 切符、交通標識、看板、電話帳、番組表、文レベル (ex. 短い伝言、案内、図表、広告文)のものから情報が得られる	1)毎日の行動を習った文を使って記録できる (短い日記/ex. 今日はずっとで買物をしました)
	E	2)身近なこと、日常的なことを文を使って話すことができる (ex. 昨日は友達と本屋へ行きました)		2)身近なこと(家庭内での話題、交通手段、滞在場所、買物)について話されたことを理解できる	2)記号や符号、図表、イラストなどを中心の読み物がわかる	2)記号や符号、図表、イラストなどが中心の読み物がわかる	2)近況を知らせる葉書、短い手紙が書ける
		3)頻度の高い日常状況を知理することができる (買物、待ち合わせ、連絡、約束)				3)日常的な手紙が理解できる	3)外国人の書いたものに読まれた人になら内容がわかる

F	F この段階では上級のことも半分以上できる			
		上 級	特 徴	
G	1) 外国人の発音にも慣れない普通の日本人にも理解できる 2) 接続詞を使って段落のある話ができる(経歴、将来の進路、旅行、家族のことなど) 3) 積極的に会話に参加し、学校内外の用が十分果たせる 4) 関心のあることについて、説明や叙述ができる 5) こみいった状況が処理できる(ex. 欠席の言訳、弁解、買った物の返品) 6) 敬語がかなり使える。内と外の言葉の使い分けがかなりできる。間違ふこともある。	1) テレビドラマなどの視覚的助けのあるものをほぼ理解できる 2) 様々な問題に関するある程度の長さの談話の大意がとれ、細部もほぼわかる 3) 実技クラス、クラブや寮の試合がすべて理解できる	1) 料理法、やさしい新聞記事、短編小説が辞書を使って読める 2) 新聞社会面や文化、家庭面が辞書を使えば読める 3) 漢字は1200-1500字位読める	1) 漢字がなまじり文で数ページ、グラフィの長さの描写文、叙述文を書くことができる 2) 目的を持った手紙(ex. 依頼、断わりの手紙)が書ける 3) 外国人の書いたものにも慣れない日本人にも理解できる
		超 級	特 徴	
J	1) 日本人にも全く問題なく理解できる 2) 抽象度の高い話題について意見も述べたり、議論したりできる 3) 公的場面でのスピーチ、会話、様々なレベルでの話し言葉を使い分け、会話に参加することができる	1) テレビ・ラジオのニュース、スポーツ、座談会などを正確に理解できる 2) 日本語の講義がほぼ理解できる	1) 町のサイン、広告、お知らせなどが語解なく理解できる 2) 新聞の非専門的な部分が読める 3) 専門分野の資料が読める	1) 授業のレポート、論文形式の試験答案をほぼ誤解なく書くことができる 2) 日本人に誤解を受けることのない文章が書ける
		「超 級」		

Ⅱ ICUの日本語教育のレベルごとの目標

ACTFLの能力基準はあくまでも評価のための基準であり、それぞれの段階でのゴールを記述したものではない。例えば初級の話しことばの能力は「暗記した語句のみで運用力は皆無、発音は普通のネイティブスピーカーに分からない」というのであるが、これは明らかにゴールではない。しかしACTFLの基準を、それぞれの段階で何が出来なければいけないかというゴールの記述に読み替え、具体的にどんなことが出来るかをさらに詳しく記述することは出来るだろう。

試みにICUの日本語コースの各レベルのゴールがどの辺りなのかをACTFLの基準を参考にして記述してみよう。ゴールを記述するに当たって、機能・脈絡（内容）・文法（正確さ）・文化の4つ柱を考えてみた。

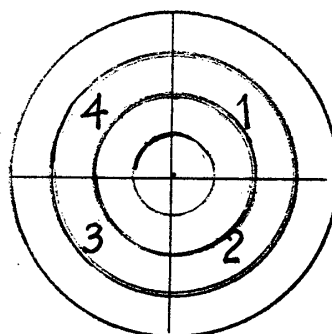
日本語1・2・3, および集中Ⅰ	
機能	日本で生活するための基本的な用が足せる。例えば自分のことを説明したり、わからないことを尋ねたり、買い物をしたりすることができる。駅や町の必要なサイン生活に必要な情報が読め、聞ける。メモを取ったり、簡単な伝言、用紙の記入、簡単な通信ができる。つまりサバイバルに必要なことが十分できる。また比較したり意見を述べたりすることも僅かにできる。
脈絡 内容	日常的な場面（大学、寮、ホームステイ、役所、郵便局、銀行、デパート、レストラン、旅行社、アルバイト先など）とそこで使われる語彙
文法	動詞、形容詞などの基本的な時制や形が使える。基本的な助詞が正しく使える。初級文法についての知識を得る。
文化	日本人の生活の仕方（挨拶、儀礼、話題などを含む）についての理解を深める。
日本語4・5 および集中Ⅱ	
機能	複雑な状況に対処できる。説明したり、受けたり、意見を述べたりできる。様々なメディアを通して得る情報の内事実に基づいた事項について骨子が分かる。専門的ではない事柄の説明がかなりわかる。聞いたり読んだりしたものの感想を書いたりまとめたりできる
脈絡 内容	対話場面・一方的な伝達場面（マスメディアなど）と事実に基づいた話題（時事問題、教育、文化、習慣、政治、経済、歴史などの中の非専門的部分）
文法	初級文法を組み合わせ、複文で表現する中級の文法

文化	日本人の生活の仕方について更に学び、敬語、待遇表現についての理解を深める。 芸術、文学について学び始める。
日本語5・6および集中Ⅲ	
機能	叙述したり意見を述べたりできる。討論にも少し参加できる。困難な状況も処理できる。専門的ではない叙述や説明がわかる。フォーマルな手紙、話し合いの要点、スピーチの原稿などが書ける。事実の報道がわかる。
脈絡 内容	対話場面・一方的な伝達場面（マスメディアなど）と事実に基づいた話題（時事問題、教育、文化、習慣、政治、経済、歴史、環境などの中の非専門的部分）
文法	中級の文法
文化	敬語や待遇表現について理解し、芸術、文学の分野以外に日本人の価値感や美意識、社会構造などの広義の文化への理解を深める。
上級日本語	
機能	抽象的な話題について意見を述べたり、議論したりできる。仮説を述べることででき複雑な交渉もできる。ニュース、座談会などがほぼ正確に理解出来る。新聞の政治面経済面もだいたい読める。
脈絡 内容	抽象度の高い事項（社会問題、環境、職業、文学、芸術）
文法	場面によってスピーチスタイルを正しく変えることができる。ほぼ誤りなく流暢に話せる。
文化	広義の文化についてさらに理解を深める。

この発達段階は下の同心円図のように考えると分かり易い。中心は自分のことであるが次第に直接体験から間接体験の世界へと広がっていく。それに従って学ぶべき事項も増えていく。

以上はごく大まかな記述であるが、各下位レベルごとの詳細な記述が得られれば、最終目標のために、どのレベルで何をすることが必要か、ひとつ上のレベルにまで引き上げるためには何をすべきかについての共通の理解を持つことができる。そして、そのためにはどんな材料が選ばなければならないか、授業の中でどのように扱うかということに議論が発展することが建設的であろう。

- 1 機能
- 2 脈絡・内容
- 3 文法
- 4 文化



Ⅲ 初級教科書の構成と内容

I C Uの日本語教育に於ける初級教科書は、集中コースⅠおよび日本語1・2・3用として開発されるものであり、Ⅰで見たようにACTFLの基準に照らせば、中級中から上辺りが到達目標となる。そしてそのためには上級のこともかなり出来ていなければならないから、上級の内容も盛り込んでおく必要がある。このような認識に立って上記のような全体的なゴールの記述を試みたわけであるが、初級教科書で扱われる量は非常に多いので全体を三つに分けて、つまり日本語1・2・3の各レベルごとにゴールを考えた方が実用的であろう。

言語の学習が同心円的な広がりをもつものとすれば、日本語1では自分中心の世界、日本語2では他者と交渉をもつ世界、日本語3では公的な場で社会的行動をする世界が中心になると考えられる。日本語1では、自分のことについて簡単に説明できる、身の回りの物や場所の名称が言える、行動の予定や習慣式行動についての応答ができる。サバイバルに必要なこと、例えば、時間を聞く、簡単な買い物をする、乗り物に乗るといったことができる。また必要最小限の挨拶・社交儀礼、例えば、住まいや天気についての受け答え、食事の時の会話、食べ物の好き嫌い、趣味などについて簡単な受け答えができるようになる。つまりこの段階では目に見える事実に基づいた言語行動が期待されていると言える。

日本語2では大学の構内以外の社会的場面で不特定の相手と簡単な交渉ができる。つまり好みを言って買い物をしたり、人を誘ったり、誘いを断ったり、過去の出来事について叙述したり、感想を述べたり、アポをとったり、病状を説明したりできる。この段階では目に見える事実を越えて、過去のことや想像したことにも言語行動が広がる。

日本語3では公の場で、ある程度の形式を踏まえて、身近な社会的事項について事実を叙述・説明できる。社会生活に必要な交渉、例えば、推薦状の依頼、アルバイトの面接、旅行社との交渉などができるようになることが期待される。またこの段階では待遇表現や敬語も使えるようになるはずである。

Ⅳ 初級教科書の枠組み

以上のように各レベルのゴールが記述されたとき、その目的のために何がどんな順序で並べられ、どんな内容が盛り込まれるべきかということが検討課題となる。このために機能、脈絡(内容)、正確さ(文法)・伝達ストラテジーの4つを枠組みとして、各単元の概略を記し、各單元ごとのゴールを記述してみよう。伝達ストラテジーは普通機能の中の一部として記述されることが多いが、ここでは非言語的要素も含めて独立させてみた。こ

のような枠組みがあれば、単元の基礎的練習や応用練習の方向づけが容易になるかもしれない。初級教科書の三分の一、つまり、日本語1の部分について、未だ試案の段階であるが筆者が考える枠組みを載せておく。 ②

おわりに：

「ゴールが見えない」「何のための練習かわからない」といった日本語のコースに対する学生からの批判は、コースの到達目標が明確に提示されていないことに一因があることが多い。これまでは「教科書の〇〇課まで学習し、日常生活に必要な伝達ができるようになる」といったようなコースシラバスが書かれることが多かったが、どこまで終われば何ができるようになるかということが明確に教科書に記述されれば、より实际的でもあり、学生の学習意欲を高めるのにも役立つのではないだろうか。また、 ②のような枠組みの中で、内容や練習の方向づけができれば、教室内での指導の際にも、思いつきのその場限りの練習や活動が排除され、教える側も学ぶ側も時間と労力を節約できるのではないだろうか。言語を学ぶということは、その言語の社会と文化の理解を含む総合的な行為であると思う。しかしその中で技能を身につける部分は出来るだけ効率よく行いたい。そのためにも冗漫な練習は極力削り、何のための練習かが学習者にはっきりと見えることが必要だと思う。

本紀要に報告されたICU初級教科書試用版は未だ素材の段階にある。ある一つの原則に従って整理され、贅肉が削られたときに、使いやすい分かり易い教科書になるのだと考える。

参考文献

- | | |
|---|-------------------------------|
| The ACTFL Oral Interview Tester Training Manual | 1989 ACTFL |
| Teaching Languages in Context | Omaggio A, 1986 HEINE & HEINE |
| 「上級日本語教育のプログラム」 | 西口光一 1990 『日本語教育 71』 |
| Syllabus Development and Programming | ALL 1988 |

② 日本語 I の枠組み

	機能	内容	脈絡	文型	ストラテジー
1	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な挨拶 ・自分（他の人）について簡単な紹介ができる ・身の回りの事物の名称を言う／尋ねる <p>GOAL: 初めて会った人と簡単な挨拶をし、個人情報の交換ができる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶の言葉: 名前、国籍、住まい、所属、専攻、(家族、職業) ・部屋の中の物、家具、調度品、文房具 ・大学の施設の名称 	<ul style="list-style-type: none"> ・初対面 ・大学、寮、ホームステイ ・日常場面 ・教室、家 	<ul style="list-style-type: none"> ・～は～です ・～は～ですか ・はい(ええ)～ ・いいえ～ではありません 	<ul style="list-style-type: none"> ・初対面場面の挨拶の仕方 ・ノンバーバル行動 ・確認の相槌 そうですか↑～ですか↓ ・エコー、聞き返し ・わからなかった時の聞き直し なんですか↑, えっ ・ノンバーバルな聞き返し ・応答
2	<ul style="list-style-type: none"> ・時間、料金をめぐる応答 ・開閉館、開始／終了、営業時間についての応答 ・簡単な買い物 ・食べ物、飲み物の注文をする ・手紙を出す <p>GOAL: 時間、料金が尋ねられる簡単な買い物、ファーストフードや郵便局で用が足せる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・数: 時間、料金、電話番号 ・喫茶店やファーストフードの食べ物、飲み物 ・時間割り、スケジュール ・手紙、切手、葉書 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学 ・郵便局 ・駅、キオスク ・喫茶店 ・ファーストフード 	<ul style="list-style-type: none"> ・～から～まで ・いくらですか ・何時ですか ・～をお願いします ・～を下さい ・数量詞 	<ul style="list-style-type: none"> ・知らない人に近づき話を切り出す (あの、すみませんが) ・感謝する ノンバーバル ・情報を尋ねる時の言語行動 ・ノンバーバル行動 ・依頼する時の言語行動
3	<ul style="list-style-type: none"> ・行動の予定、習慣的行動について応答する ・所要時間を尋ねる ・連続的行動について述べる <p>GOAL: 日常生活について社交的会話ができ、行動の予定について述べることができる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的な行動 ・交通手段 ・日、曜日、～時間 ・朝、昼、夕方、夜 ・今晩、今朝 ・今日、昨日、あした 	<ul style="list-style-type: none"> ・寮、クラス ・大学 ・ホームステイ ・保証人 	<ul style="list-style-type: none"> ・動詞の現在形 ・～ます形、辞書形 ・否定形、疑問形 	<ul style="list-style-type: none"> ・聞き返し(～ですか↑) ・わかったかわからないかわ ・知らせる

4	<ul style="list-style-type: none"> ・WHの質問ができる ・喜びの表現、相手への共感を表す ・提案する／誘う ・誘いをうける／断る ・くだけた会話ができる <p>GOAL: 一緒に行動する約束ができる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・どこか、いつか、... どこへも etc. ・今週、先週、来週 年、月 1月～12月 ～月～日 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本人の友達 	<ul style="list-style-type: none"> ・～ませんか ・～ましょう 	<ul style="list-style-type: none"> ・喜びの表現 いいですねえ。 本当ですか。 楽しみにしています ・婉曲な断り方 ～ですか、...
5	<ul style="list-style-type: none"> ・必要なものを必要量買う ・あるかないか（所有）を問う ・近隣の店、店の位置について情報の交換をする ・物や人の存在の有無と存在場所を問う ・近隣の様子について理解を深め情報を交換する <p>GOAL: 店や施設の位置／場所がわかる。必要な物を手に入れるために情報を尋ね店で必要な物が買える</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生活に必要な物の名称 ・数量詞 ・店や施設の名称 ・場所、位置の言葉 ・大学の周辺、三鷹市の案内（施設、公園など） 	<ul style="list-style-type: none"> ・東京、三鷹市 ・大学周辺 	<ul style="list-style-type: none"> ・～たいんですが ・～がほしいんですが ・～はアリマスカ 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報を尋ねる時の切り出し形 ・教えてもらった時の感謝の表現 ・他の人の家（部屋）に入る時のあいさつ おじゃまします しつれいします
6	<ul style="list-style-type: none"> ・好みについて話す ・提案する <p>GOAL: 趣味や食事について社交的会話ができる 食卓のマナーを心得、食卓の会話に参加できる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・食べ物や飲み物 ・好き／嫌い ・趣味 ・頻度を表す言葉 ・スポーツ、音楽、芸術 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームステイ ・友達同士 ・寮 	<ul style="list-style-type: none"> ・～がすぎ ・～のがすぎ 	<ul style="list-style-type: none"> ・食卓のマナー、挨拶 いただきます ごちそうさまでした ・嫌いなことを婉曲に言う ～はあまり好きじゃない ・食卓の挨拶 おいしいです。 もう少しいいかですか はい、いただきます もうけっこうです

7	<ul style="list-style-type: none"> ・天気についてコメントする ・住まいについてコメントする ・日本、東京、大学、寮の生活について描写しコメントする。 ・意見、感想を聞く。 ・商品について意見、感想を言う。 <p>GOAL: 日本での生活について感想を求められ、答えることができる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・描写する言葉 ・意見を述べる言葉(天気、住まい、生活、商品など) 	<ul style="list-style-type: none"> ・アパート ・大学 ・ホームステイ ・店 	<ul style="list-style-type: none"> ・形容詞の現在形、否定形 ・形容動詞 ・並列の形容詞、形容動詞 ・接続の言葉 	<ul style="list-style-type: none"> ・同意の相槌 ○○ですね↓ ・驚きの相槌 ○○ですか↑ ・確認の相槌 ○○ですね↓ ・言葉を探す そうですねえ ・関心を示す そうですか↓ ・共感する (それは) よかったですね ・同情する (それは) いけませんね ・買い物のマナー ちよっと見せてください また、来ます
8	<ul style="list-style-type: none"> ・自分(他人)の希望、願望を述べる ・レストランで注文する ・人を誘う ・断りの理由を言う ・将来の抱負を述べる <p>GOAL: レストランで相談して注文できる 誘う。誘われて理由を言う で断る</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職業 ・休みの過ごし方 ・外食用語 ・数量詞 	<ul style="list-style-type: none"> ・レストラン ・喫茶店 ・友人 	<ul style="list-style-type: none"> ・～たい ・～つもり ・～ようと思う ・～がる ・～んです 	<ul style="list-style-type: none"> ・婉曲な断り すみませんが、じつは.. ・誘い方 ○○でも～ませんか ・注文の言葉ー ～にします

9	<ul style="list-style-type: none"> ・行動を指示する ・位置を指示する ・場所を尋ねる ・援助を申し出る／受ける <p>GOAL: 通り掛かりの人に場所を尋ねることができる</p> <p>寮やアパートの規則を説明する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・位置、場所を示す言葉 ・寮、アパート、図書館、大学などの規則 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学 ・アパート ・通り 	<p>～まじょうか ～てください</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人を呼び止める ・聞き返す ・礼を言う
10	<ul style="list-style-type: none"> ・連続的な行為を述べる ・過去の出来事について述べる ・意見、感想を述べる ・実現しなかった理由を述べる ・物、人、場所の描写 ・同意を求めめる ・後悔の気持ちを表す <p>GOAL: 休みの出来事について社交的な会話を維持し、場所や風物について感想を述べる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・旅行、余暇 ・交通 ・サービス ・製品 ・経歴、個人史 	<ul style="list-style-type: none"> ・友人 ・日本人の知人 	<p>～はどうでしたか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・形容詞、形容動詞の過去 ・動詞の過去 (plain) ・接続表現 ・～て～て 	<ul style="list-style-type: none"> ・共感の相槌 ・よかったですね、いいですね ・同情の相槌 ・ざんねんでしたね ・言いにくい事の切り出し ・あのう、じつは... ・後悔の気持ち ・～が...
11	<ul style="list-style-type: none"> ・眼前の状況を描写、説明する ・婉曲に断わる ・電話を掛けて用事をする ・自分の近況を報告する <p>GOAL: 電話の会話ができる</p> <p>自分のことについて説明できる 人や物の描写ができる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・電話の言葉 ・人や物を描写する言葉 	<ul style="list-style-type: none"> ・寮 ・ホームステイ ・自宅 ・ミーティング 	<p>～～ている</p> <p>～～ているんです</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・電話のやりとり